portfolio by YUKIKO OHNO

ごあいさつ

２０２０年３月から画業を志して９ヶ月。画家の道に進んだきっかけは、「あなたの絵がもっと見たいから、画家になって欲しい」という知人からの強い勧めでした。
はじめは未知の世界への好奇心から飛び込んだこの道ですが、この数ヶ月間、とにかく真剣に己と向き合い、向き合っては描き、描いてはまた向き合い。ということを続けて参りました。その中で段々と、自分が絵をやることの意義が明らかになってきました。私が絵の中で様々な感情を表現することで、それを見た方の中に「承認」「赦し」「癒し」などの作用を起こすことが私の願いです。
私が願う、というよりもみなさんが私の絵を見てくださる中で、そのようなエネルギーを感じる、と言ってくださることから悟った意義でもありました。
「直感」に従って「即興」で描き、いつしか「無意識」に達した境地で描く。この描き方によって渡せるエネルギーがあると信じて活動しています。
絵をご覧いただくことで、「赦し」や「承認」を経て、皆さんに「自由」や「解放」次のステージに向けた大きなエネルギーをお渡しすることが私の願いです。

絵を描く意味と「アートの民主化」願望→
https://note.com/partner_ship/n/n9f87a5722021

プロフィール

大野 幸子　Yukiko Ohno

１９８７年生まれ、福岡県宗像市出身
慶應義塾大学文学部　社会学専攻　卒業

大学卒業後、マーケティングベンチャーにて法人営業を担当。

２０１４年パートナーと共に合同会社ナンバーツーを設立。コーチングや企業研修のマネジメントを行う。

２０１７年より、経営者と1対1で対話し、経営理念や社名、商品名をコピーライティングする事業を始動。「想いの翻訳事業」として、２年で６０社の策定を行う。

２０２０年３月より、画家としての活動を本格始動。構図を事前に定めないやり方で、主に抽象画を制作。
降りてきた直感に従い、即興で画面を構成し続ける。そこにある自由で開放的なエネルギーを作品に乗せることを願いながら活動している。

画家を目指すことになった経緯→
https://note.com/partner_ship/n/n856543748494

【個展】
－２０２０年７月　文春ギャラリー紀尾井町「価格自由な絵の展覧会」
－２０２０年１１月　目黒区美術館　区民ギャラリー「体験・体感　元気な個展」
－２０２１年２月　目黒区美術館　区民ギャラリー「the　power　of　color　～色の力～」展

“ layer ” series

layerシリーズは、「絵は重ねるほどにエネルギーを増す」という思想の元、何度も何度も、時に絵の画面全てを変化させながら納得の行くまで上書きし続けていく絵たちです。できる限りその過程を絵や写真で残すことで、絵を重ねることそれ自体も作品の一つとして織り込むことを意図しています。

色の海

117×80cm

キャンバス、アクリル、合金箔

2020

▼ 制作過程

▲ 完成作

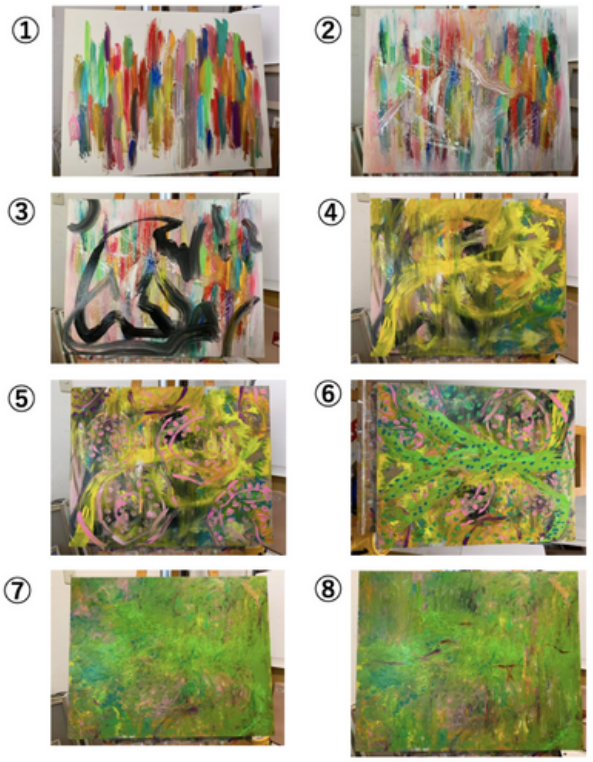
dynamic green

70×91cm

キャンバス、アクリル

2020

▼ 制作過程



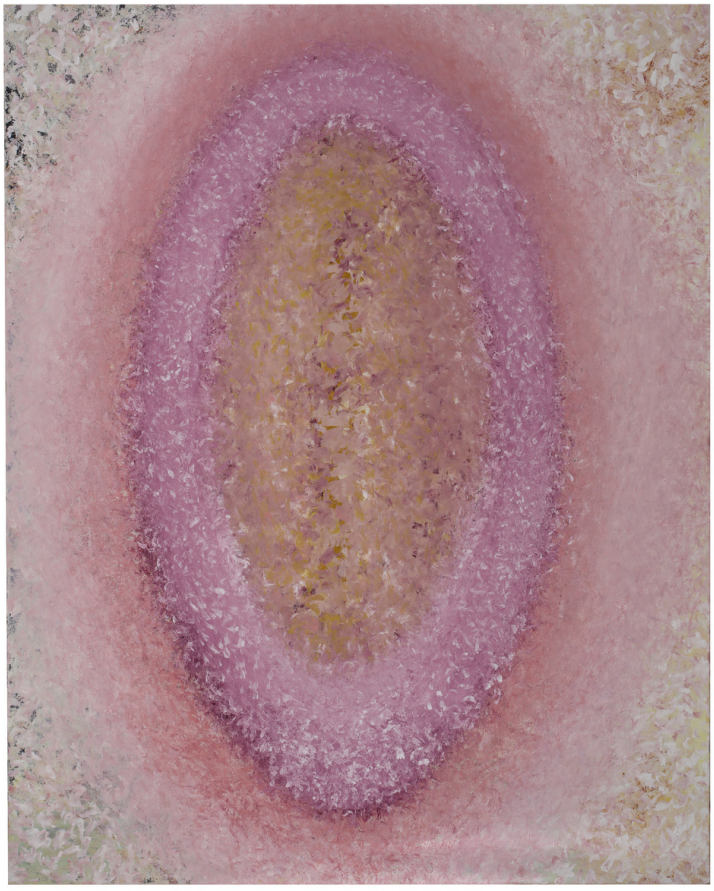
▲ 完成作

“ calling ” series

callingシリーズは、意図してつくれるものではありません。自分の中で深く潜っていき、いつしか無意識となって手を動かしたら生まれていた神秘的な絵のシリーズです。この絵を見た方は一様に「神様」「天使」「妖精」との対話という印象をおっしゃるのですが、私自身それを意図して描いている訳ではありません。自分の気づかぬ間に「何か」と繋がり、まるで“いたこ”のような存在として世に表していた、そんな作品たち。まさに何かに「呼ばれた」気がして「calling」と名付けています。

やさしい還元
130×90cm
キャンバス、アクリル、パステル
2020

天女の恵
91×72.7cm
キャンバス、アクリル
2020

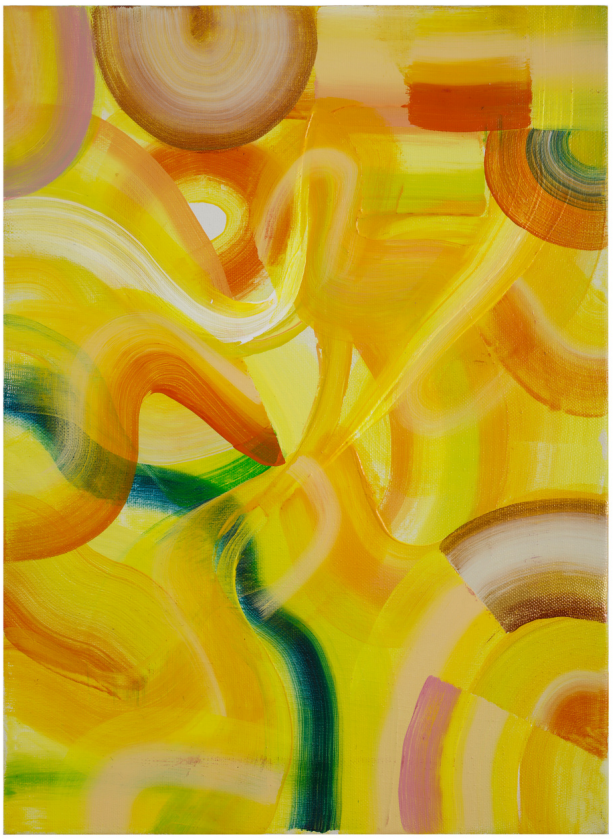


脱皮シカケル
91×72.7cm
キャンバス、アクリル
2020

“ composition ” series

compositionシリーズは、色の組み合わせ・重なり・形に対して意識的に構成することで、色の持つ力を掘り下げていくシリーズです。青という色は、一体どんな状態のときに魅力を増すのか、最大限引き出せるのか。涙が出るほど美しくなる瞬間はどこにあるのか。そんなことを探究しながら描いています。同時にこのシリーズは、人の印象から受けた感覚を色と形に落とせるものでもあり、私の中では一つの「ポートレート」のような立ち位置をになっています。

コンポジション No.1
80×53cm
キャンバス、アクリル
2020



コンポジション No.2
33×24cm
キャンバス、アクリル
2020

コンポジション No.4
50×65.2cm
キャンバス、アクリル
2020

“ melting ” series

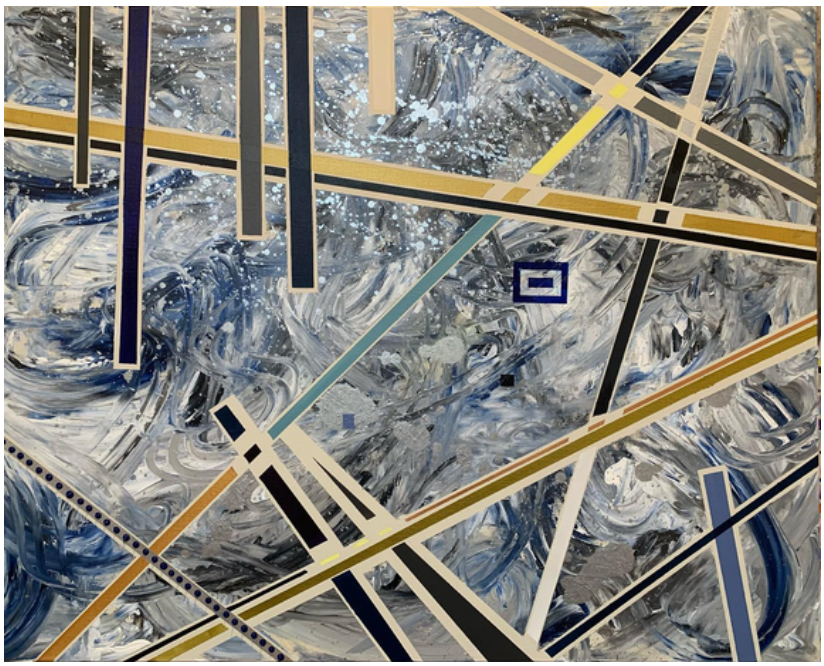
meltingシリーズは、

直線と曲線
顕在意識と潜在意識
無機性と有機性
男性性と女性性

など、一見相反しそうなものたちが仲良くする世界への招待です。ベースの曲線と、後に入れる直線で、その世界観の表現を試みています。

melting together No.4
91×72.7cm
キャンバス、アクリル
2020

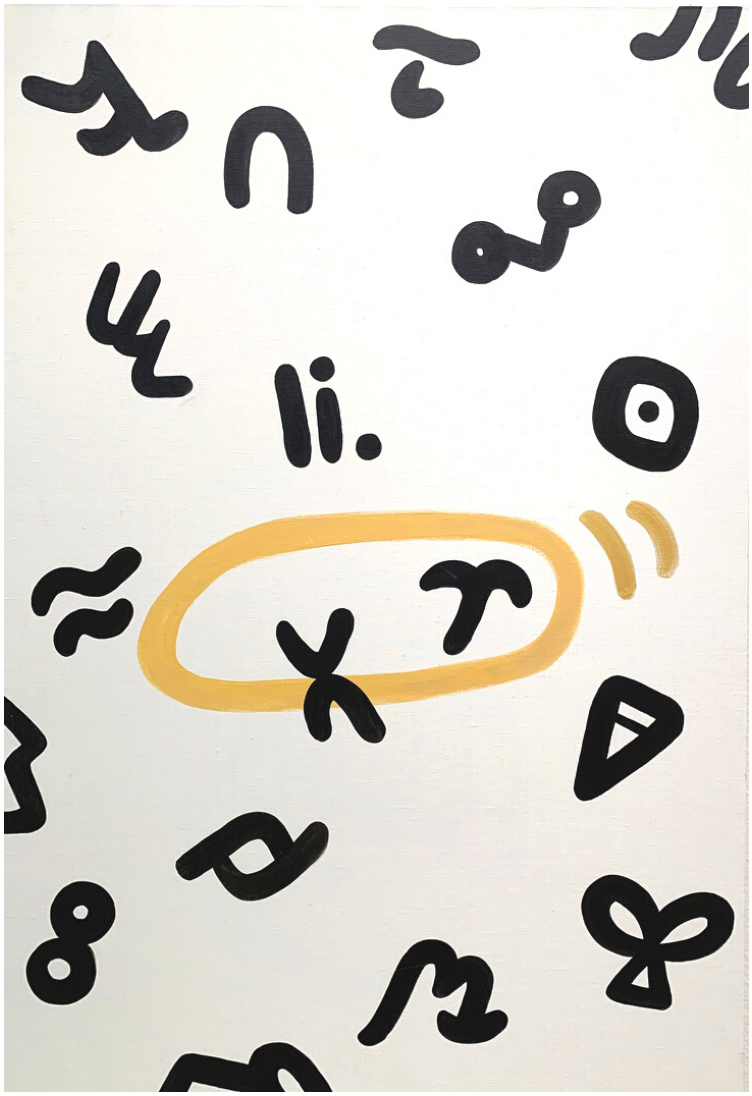
melting together No.1
45.5×45.5cm
キャンバス、アクリル
2020



melting together No.5
72.7×91cm
キャンバス、アクリル
2020

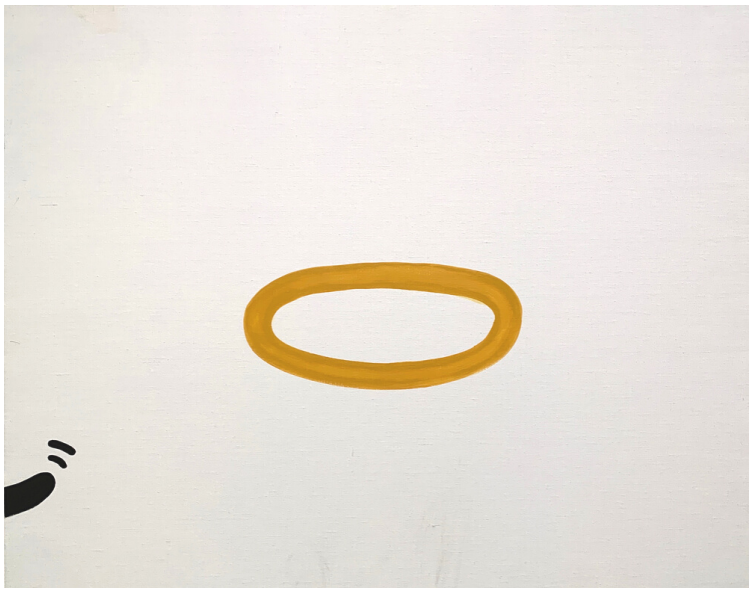
“floting” series

froatingシリーズは、「もし、今感じている重圧や負担がない世界があったとしたら」と考えたときに感じた感覚を表現した作品です。
手放す前の怖さ、ドキドキ、手放した後の感覚…
「解放浮遊感」とでも言えるような軽やかさが特徴です。



解放浮遊感
116.7×80.3cm
キャンバス、アクリル
2020

「 floating 」 episode 1
72.7×91cm
キャンバス、アクリル
2020



「 floating 」 episode 0
72.7×91cm
キャンバス、アクリル
2020

“syo（書）”series

syo（書）シリーズは、私が小さい頃から親しんでいる書道の世界観を、普段描いてい抽象画に移転したらどうなるかを試みた作品です。
特定の文字を描いている訳ではありませんが、より直感的に運ばれる筆の動きと、その後に加えられる繊細な筆入れの二つの表情をお楽しみください。

破開 (hakai)
116.7×91cm
キャンバス、アクリル
2020

私は身体に一本線が通る感覚が好きで、空手や生花など「道」がつく日本古来のものに接してきました。同様に好きな感覚を渡してくれるものとして「書」がありました。
自身の中での囚われから解放されたことで、一発書きで描けるシリーズを始めることができました。
書をオマージュしたシリーズは、自分の心からそのまま手が動くような感覚であり、身体の芯を閉じ込められる手段だと感じています。
このシリーズは自分の中に宿っているエネルギーの表出の仕方を探る、一つの好手となりそうです。
やっと、このテーマに手を出せる自分への承認として、シリーズ第一作のこの作品に「破る」と「開く」を掛け合わせ、「破開（hakai）」と名付けました。

syo（書）シリーズ、二作目となる本作。
一作目は、破り開くと書いて「破開（はかい）」
二作目は、風に印と書いて「風印（ふういん）」
二枚合わせて「阿吽（あうん）」をイメージして制作しました。

始まり、再生、開くことと。
集まり、入り、閉じる印。

タッチは書の要素がベースですが、次の段階では抽象画、アクリル画の風合いで仕上げる。
その2つの要素を融合しつつ、より感覚やエネルギーをダイレクトに画面に落とすことに挑戦しています。

風印 (fuuin)
116.7×91cm
キャンバス、アクリル
2020

fin

wonderland
91×91cm
キャンバス、アクリル、合金泊
2020

【 連絡先 】

大野 幸子
aunrey4618@gmail.com
Instagram：yukiko_ohno_